

平成23年度 札幌市学習実現状況調査

# 実施報告書

平成24年11月

札幌市教育委員会

## は　じ　め　に

札幌市においては、これまで、学校教育の四つの柱の一つとして「学ぶ力の育成」を位置付け、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等の学ぶ力を育むため、子どもたちの学習状況を踏まえた指導の一層の充実に努めてきております。

その取組の一環として、平成16年度から、小学校第5学年及び中学校第2学年の児童生徒を対象に「札幌市学習実現状況調査」を実施し、学習の実現状況を把握した上で、課題や改善の方向を示してきたところですが、この度、本年2月に小学校社会、中学校社会・英語について行った平成23年度の調査について、分析結果等をまとめ、実施報告書を作成いたしました。

本実施報告書では、実施教科に係る設問別通過率等や学習意識調査結果の分析を行うとともに、平成17年度及び平成20年度における調査結果との経年比較を行い、それらによって明らかとなった課題や改善の方向を示しております。

今回の調査においては、札幌市の通過率が設定通過率を有意に下回る観点や領域はありませんでしたが、設問別分析結果からは、小学校社会における「基本的な知識・理解」、中学校英語における「まとまった英文の内容理解」などにおいて、いくつかの課題が見られているところです。

各学校においては、学ぶ意欲を培い、基礎的・基本的な知識・理解及び技能の習得と、それらを活用した思考力・判断力・表現力等をバランスよく育むため、本実施報告書と併せて、各学校に配付した「教育課程編成の手引」（小、中学校）を積極的に活用しながら、指導方法等の工夫・改善がより一層図られるようお願いいたします。

札幌市教育委員会

教育長　北　原　敬　文

## 調査の概要

### 1 目的

札幌市の教育課程の実施状況について、学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習状況を把握し、指導上の課題等を明らかにした上で、今後の教育課程の編成や指導の改善に資する。

### 2 対象及び教科

- ・ 小学校第5学年 社会・調査対象教科に関する学習意識調査
- ・ 中学校第2学年 英語・社会・調査対象教科に関する学習意識調査

### 3 実施日程

平成24年2月21日

### 4 受検人数等

	社会	英語
小学校第5学年	974人	-
中学校第2学年	1070人	1071人

調査対象は、各学年在籍児童生徒数の約7%  
対象学校及び学級については無作為抽出

### 5 用語の説明

用語	説明
設定通過率	設定通過率は、各設問においてあらかじめ設定された、学年として期待される通過率(正答率)を領域や観点などの項目ごとに括って平均したものである。
札幌市の通過率	札幌市の通過率は、各設問における本市児童生徒の通過率(正答率)を領域や観定の項目ごとに括って平均したものである。

# 課題と改善の方向

## 1 今回の調査における課題及び改善の方向

### 今回の調査における課題

### 改善の方向

小  
学  
校

社会

基本的な知識・理解について、確実に定着すること

社会的事象について、知識を用語として覚えるのではなく、関連する理由や背景とあわせて理解すること

グラフなどの資料から、分かることを読み取る力を付けること

社会的事象について、知識や考えをまとめ、表現する力を付けること

社会的事象について、調べたことや話し合ったことを理解する活動の充実

実際の地図や写真を活用し、知識を用語としてではなく、関連する事柄とあわせてとらえる指導の充実

資料を様々な観点から見て、分かることを読み取って話し合うなどの指導の充実

資料から分かることを読み取ってまとめたり、テーマを設定して調べたことを、分かりやすくまとめて発表したりする活動の充実

中  
学  
校

社会

図や表にまとめたり、資料から分かることを判断したりする力を付けること

中世や近世の文化に関する基本的な内容についての理解を確かなものにする

歴史的事象の背景や理由について理解すること

複数の資料から必要な情報を見付け出し、図や表にまとめたり、分かることを読み取って話し合うなどの活動の充実

各時代の文化の特色について、政治の特色などと関連させて捉えさせ、振り返りを通して確実に定着させる指導の充実

資料から、歴史的事象の背景や理由について話し合う活動の一層の充実

英語

まとまった英文を読んで、内容を正確に理解すること

英語による対話文や説明を聞き、内容を正確に理解すること

場面や状況に合った適切な表現を考え、英語で書くこと

説明文や物語など、まとまった英文を読む活動を通し、情報を整理し、文章のあらすじや内容を正確に読み取る指導の充実

A L Tや音声教材の効果的な活用を図るとともに、教師によるクラスルームイングリッシュを積極的に取り入れたりするなどの指導の充実

自分の考えや意思等を書く活動を通し、場面や状況に合った適切な英語で表現できる指導の充実

## 2 学習指導等の改善について

子どもたちに、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質や能力等の学ぶ力を育むとともに、好ましい学習習慣を身に付けるために、各学校においては次のような観点から指導方法等についての工夫改善を行うことが考えられる。

### 年間指導計画の改善

年間指導計画の作成に当たって、付けるべき力を明確にするとともに、本調査等での教育課程の実現状況や各学校の児童生徒の実態を踏まえ、札幌市立学校として、自校の年間指導計画が適切かどうか評価し改善する。

### 教科指導法の改善

年間指導計画の作成とともに重要なのは、日常の授業における指導方法の改善である。教材研究をより一層深め、その教材においてどのような力を付けていかなければならないのか改めて明確にしていく必要がある。そのことを踏まえた上で、子どもの興味・関心を高め、学ぶ力を身に付けさせていく上で有効な授業展開の工夫や改善が求められる。

また、今回の調査で通過率が低かった項目については、例えば、単にドリル的な練習を繰り返すだけではなく、教科の全領域の中で定着が図られるよう基礎的・基本的な知識・理解及び技能の習得と、それらを活用した思考力・判断力・表現力等をバランスよく育む授業を通して指導の改善を図るようにする。

- 【参考】小学校 - 「札幌市小学校 教育課程編成の手引」(平成22年2月発行)  
中学校 - 「札幌市中学校 教育課程編成の手引」(平成23年2月発行)

### 教育課程改善のP D C Aサイクルに活用

教育活動の充実を図るためには、教育課程の成果や課題を把握し、改善することが重要であることから、各学校において、本調査結果を教育課程改善に役立て、P D C Aサイクルに活用する。

### 個に応じた指導の充実

指導に当たっては、児童生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や児童生徒の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返しの指導、学習内容の習熟の程度に応じた指導、児童の興味・関心等に応じた課題学習や補足的・発展的な学習活動を取り入れた指導、教師間の協力的な指導など、指導方法や指導体制の工夫改善を図る。

- 【参考】「きめ細かな指導の充実を図る～T T・少人数指導の手引～」(平成15年11月発行)

### I C T機器の活用の充実

コンピュータや実物投影機などのI C T機器を児童生徒の発達段階に応じて効果的に活用し、必要とする情報を児童生徒自らが取捨選択したり、様々な観点から比較・分析したりして、資料から分かることを読み取って話し合い、まとめさせるなどの学習活動を取り入れた指導の充実を図る。

- 【参考】「札幌市立学校ネットワーク」上の教育コンテンツ(<http://www2.sapporo-c.ed.jp/>)

### 時間割等の検討

各学校において、地域や学校及び児童生徒の実態、各教科等の学習活動の特質に応じて、時間割等を再検討することも考えられる。検討に当たっては、以下の点に留意する。

- ・ 過当たりの時間増を検討する場合は、児童生徒に過度の負担がかからないように配慮する。（同時に、学校行事等との関わりで現在の授業時数が適切に設定されているか点検する。）
- ・ 保護者、児童生徒に対して、時間設定の目的、理由等を十分に説明し、理解を得る。  
など

### 読書活動の充実

読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにするとともに、「知的好奇心」をふくらませ、一生涯にわたり学び続けようとする心が培われることから、「札幌らしい特色ある学校教育」の全ての幼稚園・学校が共通に取り組むテーマの一つに「生涯にわたる学びの基盤（読書）」として位置付けている。学校における読書環境を適切に整備することで、児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実する。

読書に対する意欲を高めるためには、以下のような取組が考えられる。

- ・ 読書及び学校図書館等の利用に関する年間指導計画の作成
- ・ 始業前の読書（いわゆる「朝の読書」や、子どもが登校してから朝の会までの時間に子どもたちが随時読書する活動など）の推進
- ・ 教科及び総合的な学習の時間での学校図書館の利用の一層の推進
- ・ 休み時間や放課後の時間の利用（読み聞かせや一斉読書の時間の設定）
- ・ 子ども読書の日、文字・活字文化の日や読書週間における、読書推進の取組の充実
- ・ 司書教諭、学校図書館ボランティアの活用  
など

### 朝の時間、放課後等を活用した学習習慣づくり

児童生徒が登校してから朝の会までの時間や放課後の時間などを、習熟の時間や、読書活動等に有効に活用し、子どもたちに学習習慣を身に付けさせていくことが考えられる。実施に当たっては、以下の点に留意する。

- ・ 児童生徒に過度の負担がかからないように配慮する。
- ・ 保護者に対して、時間設定の目的、理由等を十分に説明する。
- ・ 授業内容等に関連させるなど、子どもたちの興味・関心が持続するように工夫する。  
など

### 家庭での学習習慣づくり

「平成23年度札幌市の児童生徒の実態に関する基礎調査」などの報告によると、児童生徒が平日に学校の授業以外に勉強している1日当たりの時間は、増加傾向にある。

授業に関する宿題のみならず、学校として、子どもや保護者に対し、家庭学習の意義を説明するとともに、家庭学習の方法や、それに関わる情報等を積極的に提供するなど、家庭での学習習慣づくりを促していくことも大切である。

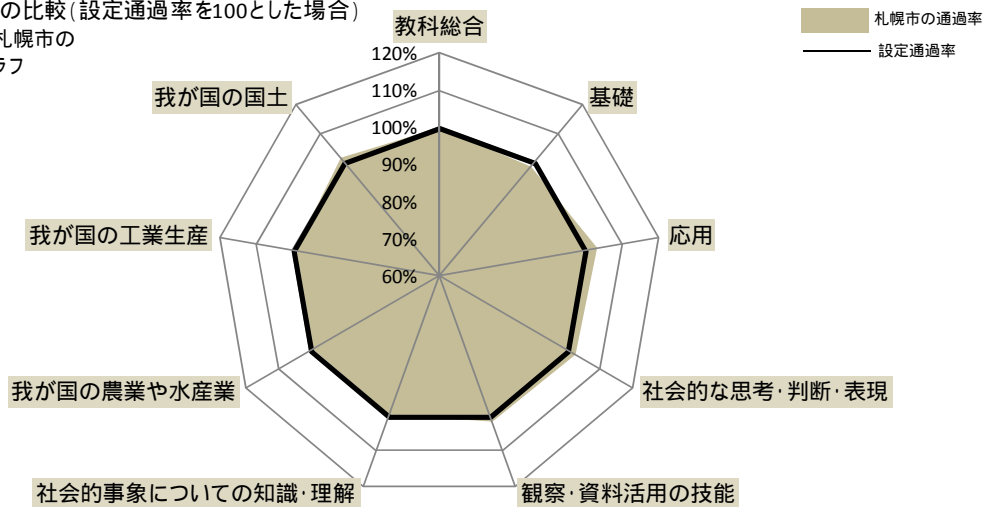
例

- ・ 日課表（生活表）づくり      ・ 漢字、計算ドリル      ・ 調査、観察      ・ 読書
- ・ 日記（中学校においては、英語を活用することも考えられる）      など

# 学年別 小学5年 学習到達度調査結果の概要 社会 全体概要

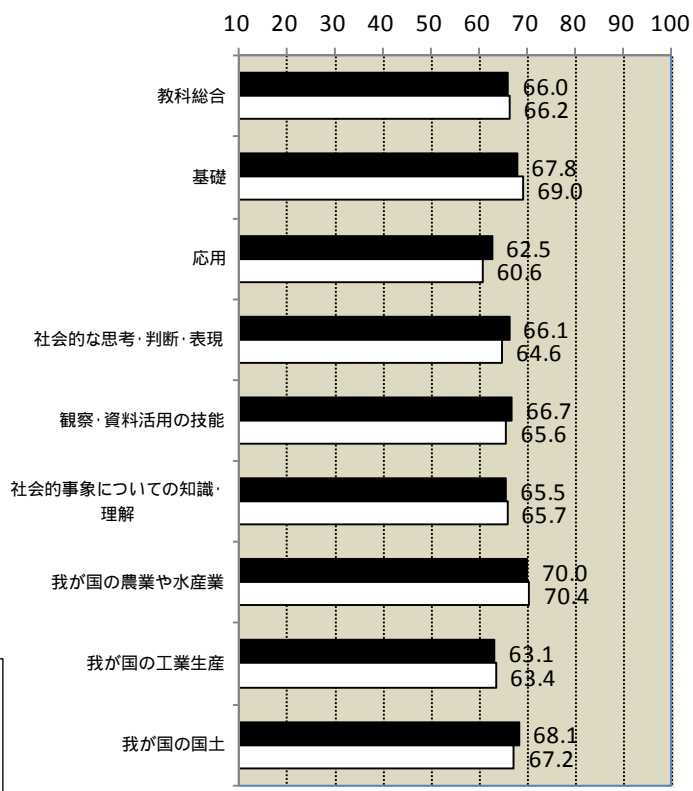
## (1) 全体概要

通過率と設定通過率との比較(設定通過率を100とした場合)  
設定通過率を100とし、札幌市の通過率の割合を示したグラフ



## 通過率と設定通過率との比較

項目	a 札幌市の通過率(平均)	b 設定通過率(平均)	差(a-b)
教科総合	66.0	66.2	-0.2
基礎	67.8	69.0	-1.2
応用	62.5	60.6	1.9
観 点			
社会的な思考・判断・表現	66.1	64.6	1.5
観察・資料活用の技能	66.7	65.6	1.1
社会的な事象についての知識・理解	65.5	65.7	-0.2
領 域			
我が国の農業や水産業	70.0	70.4	-0.4
我が国の工業生産	63.1	63.4	-0.3
我が国の国土	68.1	67.2	0.9



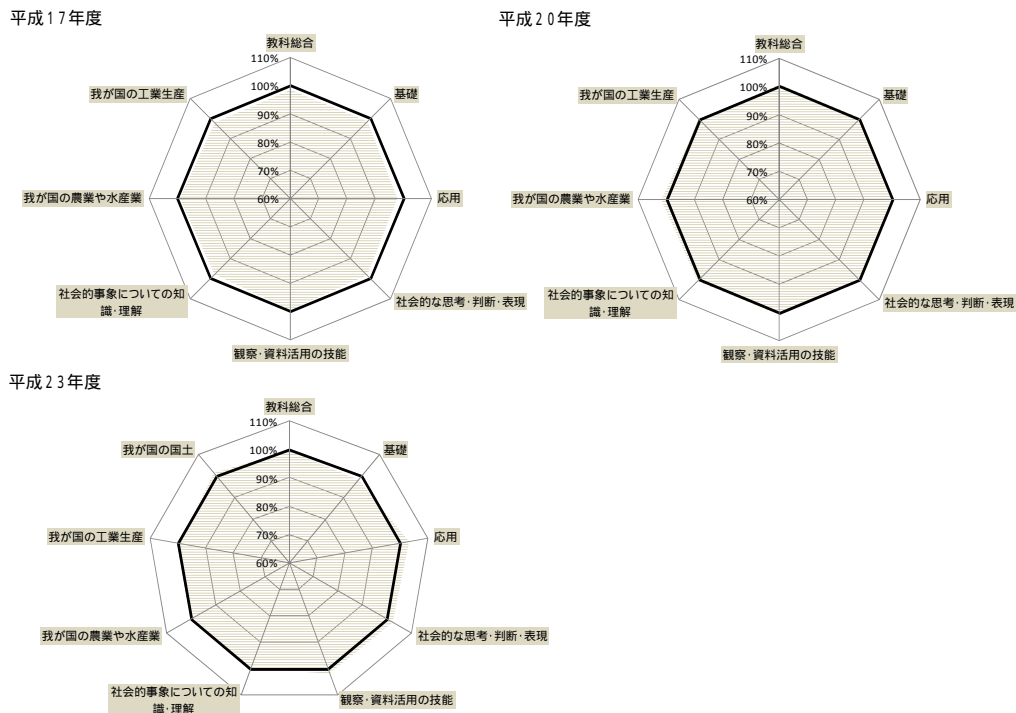
### 【通過率】

- ・教科全体で見ると、設定通過率が66.2%であるのに対して、札幌市の通過率は66.0%であり、設定通過率と有意(±3ポイント)に差がなく、ほぼ同程度となっている。
- ・基礎と応用で見ると、「基礎」「応用」ともに設定通過率とほぼ同程度となっている。
- ・観点別に見ると、すべての観点において設定通過率とほぼ同程度となっている。
- ・領域別に見ると、すべての領域において設定通過率とほぼ同程度となっている。

## (2) 経年比較

通過率と設定通過率との比較（設定通過率を 100 とした場合）

設定通過率を 100 とし、札幌市の通過率の割合を示したグラフ



## 通過率と設定通過率との比較

項目	平成17年度			平成20年度			平成23年度			
	札幌市の通過率(平均)	設定通過率(平均)	設定通過率と札幌市の通過率との差	札幌市の通過率(平均)	設定通過率(平均)	設定通過率と札幌市の通過率との差	札幌市の通過率(平均)	設定通過率(平均)	設定通過率と札幌市の通過率との差	
教科総合	74.1	75.3	-1.2	76.0	75.3	0.7	66.0	66.2	-0.2	
基礎	76.3	77.4	-1.1	78.1	77.4	0.7	67.8	69.0	-1.2	
応用	68.9	70.4	-1.5	71.0	70.4	0.6	62.5	60.6	1.9	
観点	社会的な思考・判断・表現	72.7	73.8	-1.1	74.5	73.8	0.7	66.1	64.6	1.5
	観察・資料活用 of 技能	73.7	73.9	-0.2	74.5	73.9	0.5	66.7	65.6	1.1
	社会的な事象についての知識・理解	74.4	75.8	-1.4	76.5	75.8	0.7	65.5	65.7	-0.2
領域	我が国の農業や水産業	72.2	72.7	-0.5	74.1	72.7	1.4	70.0	70.4	-0.4
	我が国の工業生産	76.3	77.9	-1.6	77.9	77.9	0.0	63.1	63.4	-0.3
	我が国の国土							68.1	67.2	0.9

### 【経年比較】

札幌市の通過率と設定通過率との差異

- ・教科全体における設定通過率との差異は、平成 20 年と、ほぼ同程度となっている。
- ・観点別に見ると、いずれの観点も、平成 20 年と、ほぼ同程度となっている。
- ・領域別に見ると、いずれの領域も、平成 20 年と、ほぼ同程度となっている。

設定通過率を 100 とした場合の札幌市の通過率の割合

- ・教科全体は、平成 20 年と、ほぼ同程度となっている。
- ・観点別に見ると、いずれの観点も、平成 20 年と、ほぼ同程度となっている。
- ・領域別に見ると、いずれの領域も、平成 20 年と、ほぼ同程度となっている。



( 3 ) 設問別通過率

問題番号		出題内容	観点設定				領域設定			通過率		無回答	基礎 / 応用
大問	小問		社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	社会的現象についての知識・理解	我が国の農業や水産業	我が国の工業生産	我が国の国土	平成二三札幌市	設定通過率	平成二三札幌市		
1	1	米作りの順序							55.1	63	0.4	基礎	
1	2	米作りの作業内容							75.7	77	3.4	基礎	
1	2	米作りの作業内容							91.8	91	3.4	基礎	
1	3	米作りの工夫(品種改良)							82.5	82.4	6.6	応用	
1	4	米作りの工夫(労働時間の推移)							69.2	65.9	1.2	応用	
2	1	日本で漁業が盛んな地域							93.6	93.6	0.4	基礎	
2	2	日本の漁業の種類							46.8	52.2	5.7	基礎	
2	2	水産業の生産推移の理由							46.5	44.8	1.8	基礎	
2	3	水産業の生産推移の理由							88.9	83.9	1	応用	
2	4	水産業の工夫							77.5	76.9	2	基礎	
3	1	日本と日本の周りの国							72.7	69.3	1	基礎	
3	1	日本の領土							57.2	46.1	15	応用	
3	2	世界の海洋の位置							79.3	84	1.2	基礎	
3	2	世界の大陸の位置							63.2	69.3	4.5	基礎	
4		野菜の生産が盛んな地域							42.2	43.2	1.6	応用	
5	1	あ 環境にやさしい自動車作り							73.4	71.5	6.2	基礎	
5	1	い 人にやさしい自動車作り							78.2	77.8	6.8	基礎	
5	1	う 人にやさしい自動車作り							82.3	82.8	7.3	基礎	
5	1	A 環境にやさしい自動車作り							83.5	81.6	7.1	基礎	
5	1	B 人にやさしい自動車作り							77.4	76.7	9	基礎	
5	2	自動車生産の工夫							76.8	77.5	3.3	応用	
6	1	日本の工業地帯・地域							38.2	45.1	21.9	基礎	
6	1	日本の工業の特色							62.1	64.2	14.3	基礎	
6	1	工業の盛んな地域							52.3	55.9	2.3	基礎	
6	2	鉄鋼工場の分布							82.6	84.1	3.6	基礎	
6	2	工業製品原材料の輸送方法							56.5	58.9	4.6	応用	
7	1	あ 日本の貿易問題							42.7	43.7	4.5	基礎	
7	1	い 日本の貿易問題							42.6	43.8	4.5	基礎	
7	2	貿易摩擦							73.4	68.6	5.4	基礎	
7	3	貿易摩擦の対策							69.2	63.8	6.6	応用	
7	3	貿易摩擦の対策の理由							46.2	42.2	9.1	応用	
8	1	船便と航空便の特徴							66	65	19.1	応用	
8	2	適切な輸送方法							32.4	37.6	20.5	応用	

( 3 ) 設問別分析

我が国の米作りに関する設問

【第1問】 第1問は、我が国の米作りに関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- ( 1 ) 「米作りの順序」の通過率は55.1%で、設定通過率を7.9ポイント下回っている。
- ( 2 ) 「米作りの作業内容」の通過率は75.7%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- ( 2 ) 「米作りの作業内容」の通過率は91.8%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- ( 3 ) 「米作りの工夫(品種改良)」の通過率は82.5%であり、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- ( 4 ) 「米作りの工夫(労働時間の推移)」の通過率は69.2%で、設定通過率を3.3ポイント上回っている。

米作りの工夫について、資料から読み取って当てはまるものを選択する問題や理由や背景を記述する問題において、設定通過率とほぼ同程度か、やや上回る結果となっていることから、資料から読み取ったり、自分の考えをまとめて記述したりする力について、一定程度、定着していると考えられる。反面、米作りの順序や、作業内容についての知識を問う問題において、設定通過率とほぼ同程度か、やや下回る結果となっていることから、基本的な知識・理解について、確実に定着できるよう、振り返りの指導が必要である。

#### 我が国の水産業に関する設問

【第2問】 第2問は、我が国の水産業に関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- (1) 「日本で水産業の盛んな地域」の通過率は93.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「日本の漁業の種類」の通過率は46.8%で、設定通過率を5.4ポイント下回っている。
- (2) 「水産業の生産推移の理由」の通過率は46.5%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (3) 「水産業の生産推移の理由」の通過率は88.9%で、設定通過率を5.0ポイント上回っている。
- (4) 「水産業の工夫」の通過率は77.5%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。

我が国の水産業については、グラフから分かることを読み取る問題において設定通過率とほぼ同程度か、やや上回る結果となっていることから、資料読み取りの基本的な技能については定着していると考えられる。反面、沿岸漁業についての基本的な知識を問う問題において、設定通過率を下回る結果となっていることから、基本的な知識・理解について、確実に定着できるよう、振り返りの指導が必要である。

#### わたしたちの国土に関する設問

【第3問】 第3問は、わたしたちの国土に関する設問である。「観察・資料活用の技能・表現」及び「社会的事象についての知識・理解」についての実現状況を把握するための設問であり、4つの小問により構成している。

- (1) 「日本と日本の周りの国」の通過率は72.7%で、設定通過率を3.4ポイント上回っている。
- (1) 「日本の領土」の通過率は57.2%で、設定通過率を11.1ポイント上回っている。
- (2) 「世界の海洋の位置」の通過率は79.3%で、設定通過率を4.7ポイント下回っている。
- (2) 「世界の大陸の位置」の通過率は63.2%で、設定通過率を6.1ポイント下回っている。

わたしたちの国土については、世界の海洋の位置や、世界の大陸の位置についての知識・理解の問題において、設定通過率を下回る結果となっていることから、基本的な知識・理解について、確実に定着できるよう、振り返りの指導が必要である。

#### 様々な食料生産に関する設問

【第4問】 第4問は、様々な食料生産に関する設問である。「観察・資料活用の技能」についての実現状況を把握するための設問であり、1つの大問により構成している。

- ・「野菜の生産が盛んな地域」の通過率は42.2%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。

様々な食料生産については、通過率は設定通過率と同程度となっていることから、様々な食料生産に関する内容はほぼ定着していると考えられる。複数の資料から分かることを読み取るなど、指導の工夫が必要である。

#### 自動車の生産に関する設問

【第5問】 第5問は、自動車の生産に関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、6つの小問により構成している。

- (1) あ「環境にやさしい自動車作り」の通過率は73.4%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (1) い「人にやさしい自動車作り」の通過率は78.2%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (1) う「人にやさしい自動車作り」の通過率は82.3%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (1) A「環境にやさしい自動車作り」の通過率は83.5%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (1) B「人にやさしい自動車作り」の通過率は77.4%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「自動車生産の工夫」の通過率は76.8%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。

自動車の生産について、通過率は設定通過率とほぼ同程度となっていることから、自動車の生産に関する内容はほぼ定着していると考えられる。資料を様々な観点から見て、分かることを読み取るなど、指導の工夫が必要である。

#### 我が国の各種の工業生産や工業地域の分布に関する設問

【第6問】 第6問は、我が国の各種の工業生産や工業地域の分布に関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- (1) 「日本の工業地帯・地域」の通過率は38.2%で、設定通過率を6.9ポイント下回っている。
- (1) 「日本の工業の特色」の通過率は62.1%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (1) 「工業の盛んな地域」の通過率は52.3%で、設定通過率を3.6ポイント下回っている。
- (2) 「鉄鋼工場の分布」の通過率は82.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「工業製品材料の輸送方法」の通過率は56.5%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。

工業立地についての知識を問う問題や、日本の工業の特色について答える問題において、設定通過率を下回る傾向が見られた。これらの問題については、無解答が比較的高くなっている。我が国の工業地域の分布については、知識を用語としてではなく、関連する理由や背景とあわせて理解できるよう、実際の写真や地図を活用した指導が必要である。

### 日本の貿易に関する設問

【第7問】 第7問は、日本の貿易に関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- (1) あ「日本の貿易問題」の通過率は42.7%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (1) い「日本の貿易問題」の通過率は42.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「貿易摩擦」の通過率は73.4%で、設定通過率を4.8ポイント上回っている。
- (3) 「貿易摩擦の対策」の通過率は69.2%で、設定通過率を5.4ポイント上回っている。
- (3) 「貿易摩擦の対策の理由」の通過率は46.2%で、設定通過率を4.0ポイント上回っている。

日本の貿易について、通過率は設定通過率とほぼ同程度、もしくは上回っていることから、自動車の生産に関する内容はほぼ定着していると考えられる。資料を様々な観点から見て、分かることを読み取るなど、指導の工夫が必要である。

### 様々な運送方法に関する設問

【第8問】 第8問は、様々な運送方法に関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、2つの小問により構成している。

- (1) 「船便と航空便の特徴」の通過率は66.0%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「適切な運送方法」の通過率は32.4%で、設定通過率を5.2ポイント下回っている。

様々な運送方法については、通過率は設定通過率とほぼ同程度、もしくは下回っている。グラフから分かることを読み取って、理由を記述する問題において、通過率が他の設問に比べて低くなっている傾向が見られるとともに、無回答が比較的高くなっている。資料から分かることを読み取って話し合う指導が必要である。

(4) 社会学習に関する意識結果

	年度	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
日本のいろいろな町や場所のことをもっと知りたいと思う。	平成17年度	33.0	36.4	22.3	8.1
	平成20年度	26.5	46.1	22.5	4.7
	平成23年度	30.5	46.2	17.2	5.1
社会の学習で疑問を持ったことについて、自分から調べるようにしている。	平成17年度	9.6	32.9	45.6	11.8
	平成20年度	9.7	35.0	45.2	9.9
	平成23年度	11.5	39.4	39.0	9.1
地域や国土のよさを大切にしようと思う。	平成17年度	34.0	44.3	17.4	4.1
	平成20年度	41.1	40.0	15.4	3.3
	平成23年度	45.0	39.9	11.4	2.9
社会の学習で新しく地名が出てきたら、地図で確認するようにしている。	平成17年度	19.2	33.3	33.0	14.0
	平成20年度	22.8	33.1	31.4	12.5
	平成23年度	22.2	36.1	30.8	10.0
図書館やコンピュータなどを利用して、資料を集め活用している。	平成17年度	31.9	28.2	26.3	13.3
	平成20年度	27.1	28.7	30.3	13.7
	平成23年度	23.0	32.6	29.9	13.6
ニュースや新聞に出てくる『出来事』に興味をもっている。	平成17年度	40.0	33.4	19.0	7.3
	平成20年度	43.9	32.7	14.7	8.6
	平成23年度	44.8	35.4	12.7	6.1
地域や国土の自然を守るために、自分にできることを見付けて実行している。	平成17年度	14.6	37.8	35.1	12.1
	平成20年度	24.0	37.4	28.6	9.8
	平成23年度	20.0	42.8	26.1	10.0

<全体について>

平成20年度に比べて、1つの質問を除いて肯定的な回答をした児童の割合が増加している。

成績上位層(A層)と下位層(D層)との差が最も大きかった質問は、「ニュースや新聞に出てくる出来事に興味をもっている」であった。普段からの身のまわりの社会的事象に対する興味・関心が、学力差にかかわっていることが読み取れる。

<設問別分析>

「日本のいろいろな町や場所のことをもっと知りたいと思う」という質問では、肯定的な回答が76.7%であった。

「社会の学習で疑問をもったことについて、自分から調べるようにしている」という質問では、肯定的な回答が50.9%、A層においても62.2%であった。調べ学習などを通して、調べ方を理解し、主体的に調べる態度を育成したい。

「地域や国土のよさを大切にしようと思う」という質問では、肯定的な回答が84.9%であった。引き続き、様々な地域についての理解を深める指導などを通して、地域や国土を大切にできる態度を育成したい。

「社会の学習で新しく地名が出てきたら、地図で確認するようにしている」という質問では、肯定的な回答が58.3%であった。新しく学習した内容を地図で必ず確認するなどの指導を通して、地図を活用する習慣を身に付けるようにすることが大切である。

「図書館やコンピュータなどを利用して、資料を集め活用している」という質問では、肯定的な回答が55.6%であった。唯一、肯定的な回答をした割合が平成20年度より減少した項目である。引き続き、調べ学習で図書館やコンピュータを活用するなどの指導を通して、様々なメディアを利用し、情報を収集する習慣を身に付けるようにすることが大切である。

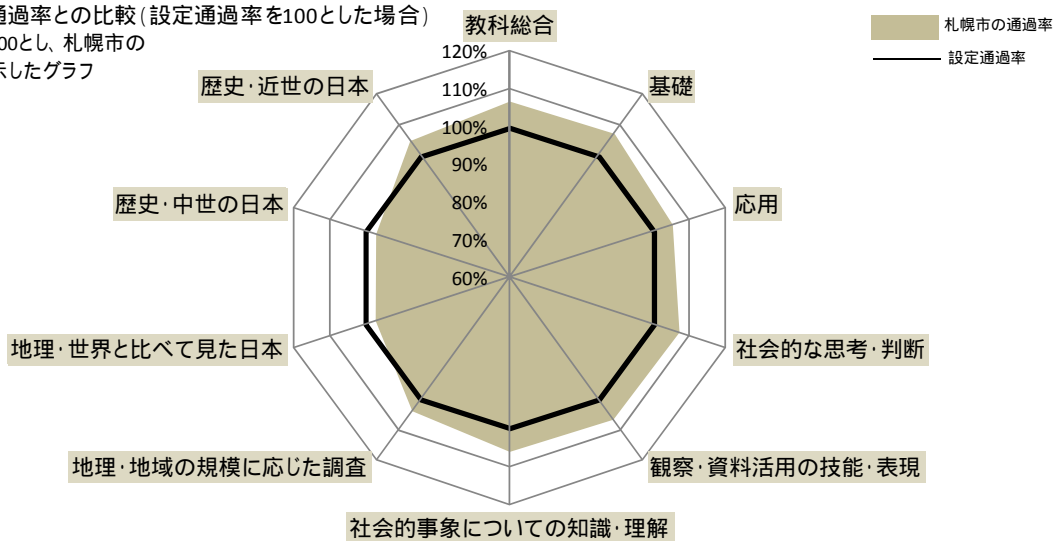
「ニュースや新聞に出てくる出来事に興味をもっている」という質問では、肯定的な回答が80.2%であった。引き続き、授業で様々なニュースについて取り上げるなどして、社会の出来事についての興味関心を引き出したい。

「地域や国土の自然を守るために、自分にできることを見付けて実行している」という質問では、肯定的な回答が62.8%であった。授業で身近な環境問題について取り上げるなどして、環境に対する意識を高めるようにすることが大切である。

# 学年別 中学2年 学習到達度調査結果の概要 社会 全体概要

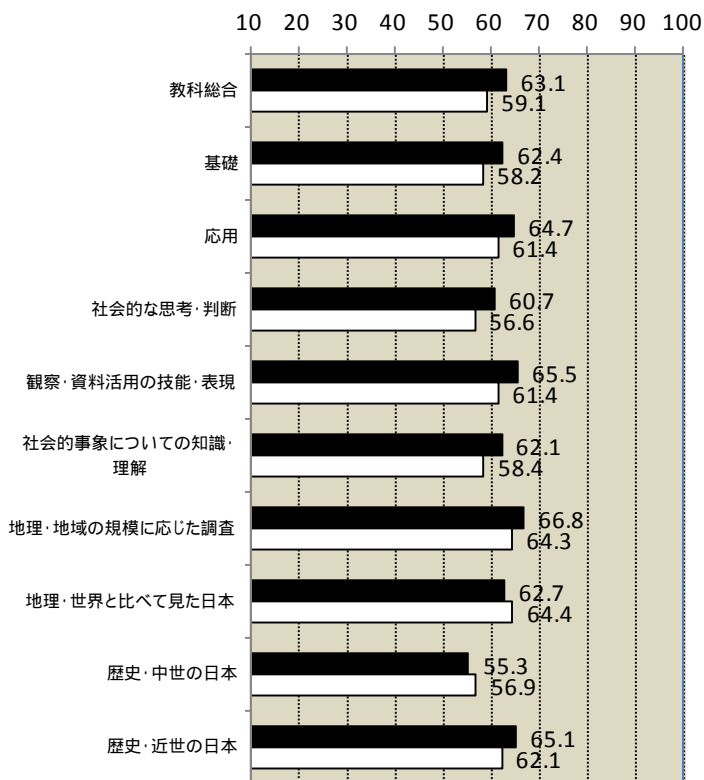
## (1) 全体概要

通過率と設定通過率との比較(設定通過率を100とした場合)  
設定通過率を100とし、札幌市の通過率の割合を示したグラフ



### 通過率と設定通過率との比較

	項目	a 札幌市の通過率(平均)	b 設定通過率(平均)	差(a-b)
教科総合	教科総合	63.1	59.1	4.0
	基礎	62.4	58.2	4.2
	応用	64.7	61.4	3.3
観点	社会的な思考・判断	60.7	56.6	4.1
	観察・資料活用の技能・表現	65.5	61.4	4.1
	社会的な事象についての知識・理解	62.1	58.4	3.7
領域	地理・地域の規模に応じた調査	66.8	64.3	2.5
	地理・世界と比べて見た日本	62.7	64.4	-1.7
	歴史・中世の日本	55.3	56.9	-1.6
	歴史・近世の日本	65.1	62.1	3.0



■ 札幌市の通過率  
□ 設定通過率

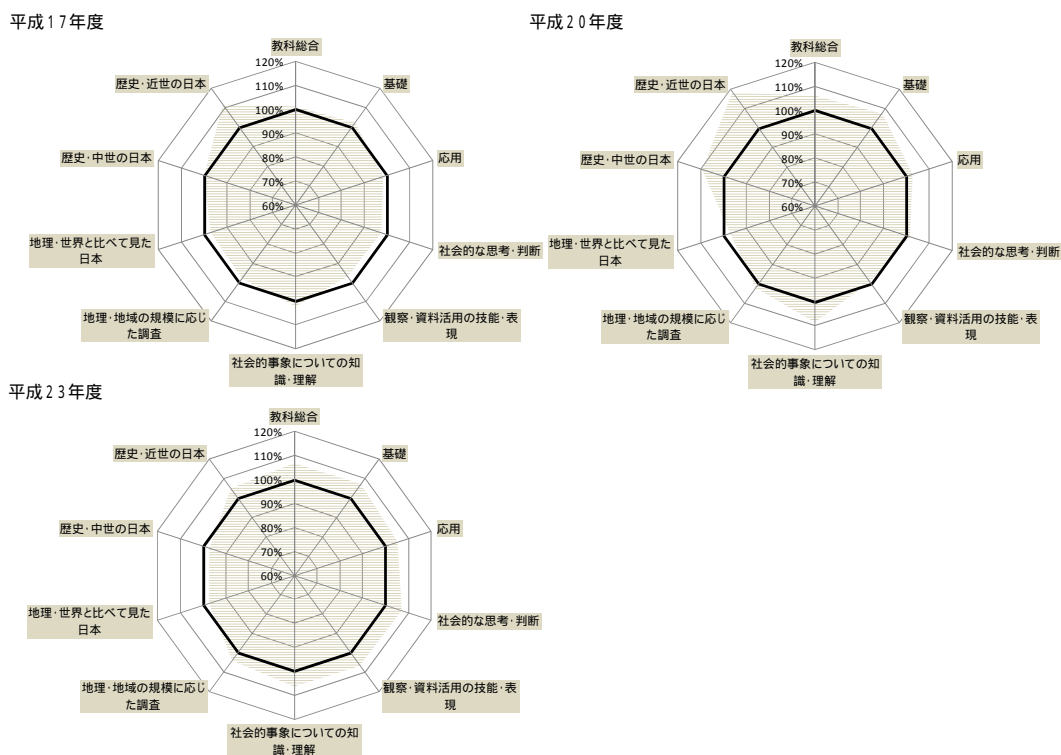
### 【通過率】

- ・教科全体で見ると、設定通過率が59.1%であるのに対して、札幌市の通過率は63.1%であり、設定通過率を4.0ポイント有意に上回っている。
- ・基礎と応用で見ると、「基礎」が4.2ポイント、「応用」が3.3ポイント設定通過率を有意に上回っている。
- ・観点別に見ると、「社会的な思考・判断」「観察・資料活用の技能・表現」「社会的な事象についての知識・理解」の観点において、それぞれ4.1ポイント、4.1ポイント、3.7ポイント設定通過率を有意に上回っている。
- ・領域別に見ると、「歴史・近世の日本」において、3.0ポイント設定通過率を有意に上回っている。その他の領域においては、設定通過率とほぼ同程度となっている。

## (2) 経年比較

通過率と設定通過率との比較（設定通過率を 100 とした場合）

設定通過率を 100 とし、札幌市の通過率の割合を示したグラフ



### 通過率と設定通過率との比較

項目	平成17年度			平成20年度			平成23年度		
	札幌市の通過率(平均)	設定通過率(平均)	設定通過率と札幌市の通過率との差	札幌市の通過率(平均)	設定通過率(平均)	設定通過率と札幌市の通過率との差	札幌市の通過率(平均)	設定通過率(平均)	設定通過率と札幌市の通過率との差
教科総合	61.9	61.3	0.6	65.0	61.3	3.7	63.1	59.1	4.0
基礎	62.6	61.3	1.3	66.0	61.3	4.7	62.4	58.2	4.2
応用	60.3	61.3	-1.0	63.0	61.3	1.7	64.7	61.4	3.3
観点									
社会的な思考・判断	63.4	64.9	-1.6	65.9	64.9	1.0	60.7	56.6	4.1
観察・資料活用の技能・表現	63.2	65.2	-2.0	64.5	65.2	-0.7	65.5	61.4	4.1
社会的な思考・判断	59.9	58.5	1.4	63.4	58.5	4.9	62.1	58.4	3.7
領域									
地理・地域の規模に応じた調査	65.1	66.3	-1.2	67.7	66.3	1.4	66.8	64.3	2.5
地理・世界と比べて見た日本	66.5	68.3	-1.9	66.3	68.3	-2.0	62.7	64.4	-1.7
歴史・中世の日本	60.6	60.6	0.0	66.2	60.6	5.7	55.3	56.9	-1.6
歴史・近世の日本	55.2	49.5	5.7	58.7	49.5	9.2	65.1	62.1	3.0

#### 【経年比較】

##### 札幌市の通過率と設定通過率との差異

- ・教科全体における設定通過率との差異は、平成 20 年とほぼ同程度となっている。
- ・観点別に見ると、「社会的な思考・判断」において平成 20 年よりも 3.1 ポイント、「観察・資料活用の技能・表現」において平成 20 年よりも 4.8 ポイント上回っている。「社会的な思考・判断」においては平成 20 年とほぼ同程度となっている。

- ・領域別に見ると、「歴史・中世の日本」において平成 20 年より 7.3 ポイント、「歴史・近世の日本」において、平成 20 年よりも 6.2 ポイント下回っている。その他の領域は、平成 20 年とほぼ同程度となっている。

##### 設定通過率を 100 とした場合の札幌市の通過率の割合

- ・教科全体における設定通過率との差異は、平成 20 年とほぼ同程度となっている。
- ・観点別に見ると、「社会的な思考・判断」「観察・資料活用の技能・表現」において平成 20 年よりもそれぞれ 5.7 ポイント、7.8 ポイント上回っている。「社会的な思考・判断」においては平成 20 年とほぼ同程度となっている。

- ・領域別に見ると、「歴史・中世の日本」「歴史・近世の日本」において、平成 20 年よりもそれぞれ 12.0 ポイント、13.8 ポイント下回っている。その他の領域は、平成 20 年とほぼ同程度となっている。

(3) 設問別通過率

問題番号		出題内容	観点設定					領域設定				通過率		無回答	基礎 / 応用
大問	小問		社会的な思考・判断	観察・資料活用・表現	社会的現象についての知識・理解		地理・地域の規模に応じた調査	地理・世界と比べて見た日本	歴史・中世の日本	歴史・近世の日本		平成二三札幌市	設定通過率	平成二三札幌市	
1	1	世界の食料自給率										77.2	71.8	2	基礎
1	1	日本の食料自給率の変化										51.9	53.2	23.1	応用
1	2	世界の産業別就業人口の資料読み取り										78.4	80.9	2.5	基礎
1	2	日本の農業の特徴										58.8	48.1	1.7	応用
1	3	調査方法										67.9	67.1	1.8	基礎
2	1	日本の平地										50.6	48.7	15.3	基礎
2	2	日本の海流										55.5	58.2	1.4	基礎
2	3	日本でみられる災害										77.3	80.8	1.3	基礎
2	4	日本の気候										44.1	49.6	1.5	基礎
2	5	防災										83	85.5	13	応用
3	1	世界の人口の推移										57.9	54.8	3.4	基礎
3	2	世界の人口の特徴										61.8	60.2	2.8	応用
3	3	日本の人口密度に関する作図										81.5	85	7.6	応用
3	4	日本の人口密度に関する資料読み取り										53.8	59.3	2.7	基礎
3	5	日本の人口問題										61.6	61.3	2.2	基礎
4	1	鎌倉幕府のしくみ										73.6	76.3	1.2	基礎
4	2	北条氏の政治										25.6	26.4	40.3	基礎
4	3	徳政令										79.3	80.5	2.2	応用
4	4	鎌倉幕府の滅亡										46.9	43.4	1.8	応用
4	5	室町時代の文化										50.8	58.1	21.9	基礎
5	1	ヨーロッパ人の来航										90.3	89	4.6	基礎
5	2	ヨーロッパ人の来航										77.6	78.9	2	基礎
5	3	豊臣秀吉の政策										64.7	66.6	7	応用
5	4	大名の統制										68.7	65.9	1.7	基礎
5	5	貿易の統制										64.8	58.1	11.1	基礎
6	1	元祿文化										41.3	36.7	1.8	基礎
6	2	元祿文化										52.6	44.6	1.8	基礎
6	3	享保の改革										54.4	42.8	14.6	基礎
6	3	民衆の動き										88.2	86.6	1.9	基礎
6	4	寛政の改革										58.1	52.5	2.2	基礎
7	1	歴史新聞の記事補充										84.3	83	3.4	応用
7	2	化政文化										33.5	39.3	32.8	応用

(3) 設問別分析

さまざまな面からとらえた日本

【第1問】 第1問は、さまざまな面からとらえた日本に関する設問である。「社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- (1) 「世界の食糧自給率」の通過率は77.2%で、設定通過率を5.4ポイント上回っている。
- (1) 「日本の食料自給率の変化」の通過率は51.9%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「世界の産業別就業人口の資料読み取り」の通過率は78.4%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「日本の農業の特徴」の通過率は58.8%で、設定通過率を10.7ポイント上回っている。
- (3) 「調査方法」の通過率は67.9%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。

さまざまな面からとらえた日本、通過率は設定通過率とほぼ同程度、もしくは上回っている。同設問に関する理解はほぼ定着していると考えられる。一方、記述問題において無解答が比較的高くなっている。複数の資料を様々な観点から比較・分析し、分かることを読み取って話し合い、まとめさせるなど、指導の一層の充実に努めていく必要がある。



#### 日本の姿と様々な地域に関する設問

【第2問】 第2問は、日本の姿と様々な地域に関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- (1) 「日本の平地」の通過率は50.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「日本の海流」の通過率は55.5%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (3) 「日本でみられる災害」の通過率は77.3%で、設定通過率を3.5ポイント下回っている。
- (4) 「日本の気候」の通過率は44.1%で、設定通過率を5.5ポイント下回っている。
- (5) 「防災」の通過率は83.0%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。

基本的な知識・理解に関する問題や、資料から必要な情報を読み取り、分かることを答える問題において、通過率が設定通過率を下回っていることから、基本的な知識・理解について、確実に定着できるよう、振り返りの指導が必要である。

#### 世界と日本の人口に関する設問

【第3問】 第3問は、日本の気候に関する設問である。「社会的事象についての知識・理解」「観察・資料活用の技能・表現」についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- (1) 「世界の人口の推移」の通過率は57.9%で、設定通過率を3.1ポイント上回っている。
- (2) 「世界の人口の特徴」の通過率は61.8%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (3) 「日本の人口密度に関する作図」の通過率は81.5%で、設定通過率を3.5ポイント下回っている。
- (4) 「日本の人口密度に関する資料読み取り」の通過率は53.8%で、設定通過率を5.5ポイント下回っている。
- (5) 「日本の人口問題」の通過率は61.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。

世界と日本の人口について、地図などの資料から読み取ったことをもとに答えたり作図したりする問題で、設定通過率を下回っている。資料から情報を正しく読み取ったり、図や表にまとめたりする基本的な技能について、振り返りの指導が必要である。

#### 中世の日本に関する設問

【第4問】 第4問は、中世の日本に関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- (1) 「鎌倉幕府のしくみ」の通過率は73.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「北条氏の政治」の通過率は25.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (3) 「徳政令」の通過率は79.3%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (4) 「鎌倉幕府の滅亡」の通過率は46.9%で、設定通過率を3.5ポイント上回っている。
- (5) 「室町時代の文化」の通過率は50.8%で、設定通過率を7.3ポイント下回っている。

中世の日本については、通過率は設定通過率とほぼ同程度となっていることから、中世の日本に関する理解はほぼ定着していると考えられる。一方、知識問題において、ほかの問題に比べて通過率が低く、また無解答も比較的高くなっている設問もある。基本的な知識事項について、確実に定着できるよう、今一度、振り返りの指導が必要である。

#### ヨーロッパ人との出会いと全国統一に関する設問

【第5問】 第5問は、ヨーロッパ人との出会いと全国統一に関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- (1) 「ヨーロッパ人の来航」の通過率は90.3%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「ヨーロッパ人の来航」の通過率は77.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (3) 「豊臣秀吉の政策」の通過率は64.7%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (4) 「大名の統一」の通過率は68.7%であり、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (5) 「貿易の統制」の通過率は64.8%であり、設定通過率を6.7ポイント上回っている。

ヨーロッパ人との出会いと全国統一については、設定通過率とほぼ同程度もしくは上回っているため、同設問に関する理解はほぼ定着していると考えられる。歴史的事柄を知識として単独で理解するだけでなく、関連する理由や背景と合わせて理解できるよう、資料などを活用した指導の工夫が求められる。

#### 江戸時代に関する設問

【第6問】 第6問は、江戸時代に関する設問である。「社会的事象についての知識・理解」「社会的な思考・判断」についての実現状況を把握するための設問であり、5つの小問により構成している。

- (1) 「元禄文化」の通過率は41.3%で、設定通過率を4.6ポイント上回っている。
- (2) 「元禄文化」の通過率は52.6%で、設定通過率を8.0ポイント上回っている。
- (3) 「享保の改革」の通過率は54.4%で、設定通過率を11.6ポイント上回っている。
- (3) 「民衆の動き」の通過率は88.2%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (4) 「寛政の改革」の通過率は58.1%で、設定通過率を5.6ポイント上回っている。

設定通過率を上回っている設問が多く、同設問に関する理解は定着できていると考えられる。引き続き、基本的な知識・理解の確実な定着と、歴史の流れの中で歴史的事柄を捉え、より理解を深められるよう、資料などを活用した指導の工夫が求められる。

#### 歴史新聞（江戸時代後期の学問と文化）に関する設問

【第7問】 第7問は、江戸時代後期の学問と文化に関する設問である。社会における3観点についての実現状況を把握するための設問であり、2つの小問により構成している。

- (1) 「歴史新聞の記事補充」の通過率は84.3%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 「化政文化」の通過率は33.5%で、設定通過率を5.8ポイント下回っている。

資料から読み取ったことをもとに思考し、歴史的事柄の背景・理由について記述する問題で、通過率が設定通過率を下回っている。また、無解答率も、他の設問と比べると高くなっている。江戸時代後期の学問と文化についての知識・理解の確実な定着とともに、資料などを活用して、歴史的事柄の背景や理由も合わせて理解を深める指導の工夫が求められる。

(4) 社会学習に関する意識結果

	年度	とてもあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
社会の学習をして、わが国と世界の国々の様子、歴史の流れや各時代の特色がわかり、もっと知りたいと思った。	平成17年度	18.0	39.1	30.0	11.4
	平成20年度	17.8	44.9	27.9	9.2
	平成23年度	21.0	46.1	23.6	8.5
社会の学習内容でわからないことや疑問をもったことについて、自分から調べるようにしている。	平成17年度	8.9	30.9	42.6	16.1
	平成20年度	10.1	33.7	39.8	16.2
	平成23年度	12.5	36.0	36.9	13.8
地域や国土のよさを大切にしたいと思う。	平成17年度	22.6	41.3	26.6	8.1
	平成20年度	27.5	42.9	22.3	7.0
	平成23年度	34.5	40.6	18.3	5.9
社会の学習で新しく地名が出てきたら、地図で確認するようにしている。	平成17年度	7.9	20.2	42.0	28.4
	平成20年度	9.3	23.2	38.4	28.9
	平成23年度	11.2	27.4	38.0	22.5
調べ学習のときなどに、図書館や、インターネットを利用して資料を集め活用している。	平成17年度	33.5	29.4	20.6	14.8
	平成20年度	30.9	27.5	22.6	18.7
	平成23年度	30.4	26.8	25.1	16.9
社会の学習をして、ニュースや新聞に出てくる出来事に興味をもつようになった。	平成17年度	20.2	39.3	27.1	11.8
	平成20年度	20.9	41.1	25.9	11.8
	平成23年度	23.0	38.5	25.6	12.1
地域や国土の自然を守るために、自分にできることを見付けてそれを実行している。	平成17年度	7.0	25.7	44.4	21.2
	平成20年度	9.5	33.2	37.3	19.7
	平成23年度	11.6	35.5	35.7	16.4

<全体について>

平成20年度に比べて、2つの質問を除いて肯定的な回答をした生徒の割合が増加している。成績上位層(A層)と下位層(D層)との差が最も大きかった質問は、「社会の学習をして、わが国と世界の国々のようす、歴史の流れや各時代の特色が分かり、もっと知りたいと思った」であった。社会的事象に対する興味・関心が、学力差に関わっていることが読み取れる。

<設問別分析>

「社会の学習をして、わが国と世界のようす、歴史の流れや各時代の特色が分かり、もっと知りたいと思った」という質問では、肯定的な回答が67.1%であった。地理や歴史に関連する具体的な写真や資料を取り上げるなどして、日本や世界の地理、歴史についての興味関心を引き出したい。

「社会の学習内容でわからないことや疑問をもったことについて、自分から調べるようにしている」という質問では、肯定的な回答が48.5%であった。調べ学習などを通して、調べ方を身に付け、主体的に調べ理解しようとする態度を育成したい。

「地域や国土のよさを大切にしたいと思う」という質問では、肯定的な回答が75.1%であった。引き続き、様々な地域についての理解を深める指導などを通して、地域や国土を大切にしたい態度を育成したい。

「社会の学習で新しく地名が出てきたら、地図で確認するようにしている」という質問では、肯定的な回答が38.6%であった。新しく学習した内容を地図で必ず確認するなどの指導を通して、地図を活用する習慣を身に付けるようにすることが大切である。

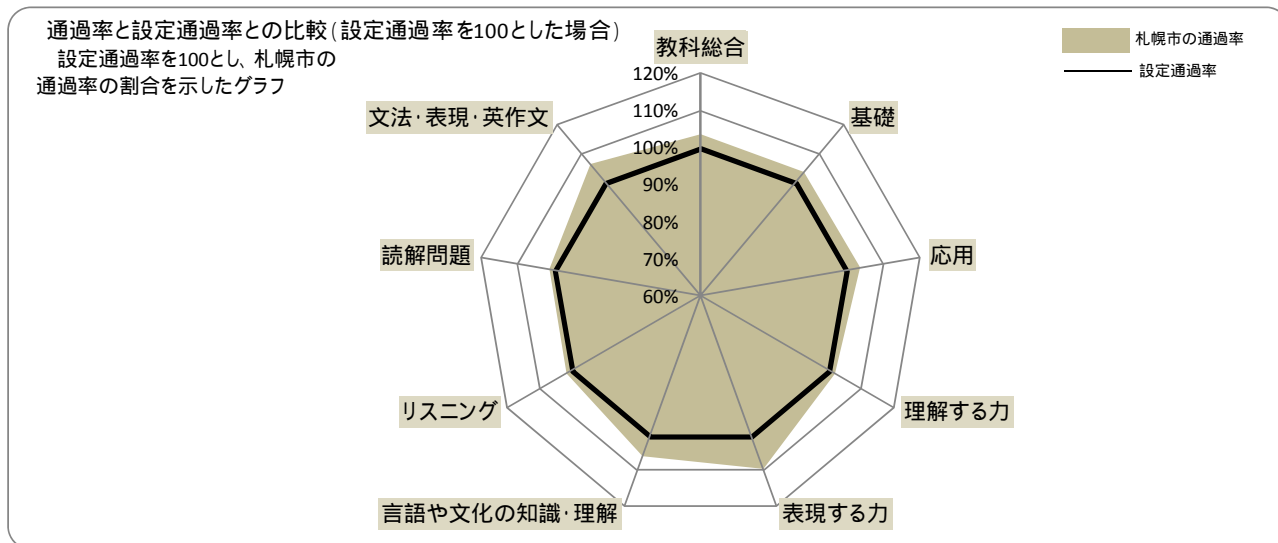
「調べ学習のときなどに、図書館や、インターネットを利用して資料を集め活用している」という質問では、肯定的な回答が57.2%であった。引き続き、調べ学習で図書館やコンピュータを活用するなどの指導を通して、様々なメディアを利用して情報を収集する習慣を身に付けるようにすることが大切である。

「社会の学習をして、ニュースや新聞に出てくる出来事に興味をもつようになった」という質問では、肯定的な回答が61.5%であった。様々なニュースについて、社会の学習と関連させながら取り上げるなどして、社会の出来事についての興味関心を引き出したい。

「地域や国土の自然を守るために、自分にできることを見付けてそれを実行している」という質問では、肯定的な回答が47.1%であった。授業で身近な環境問題について取り上げるなどして、環境に対する意識を高めるようにすることが大切である。

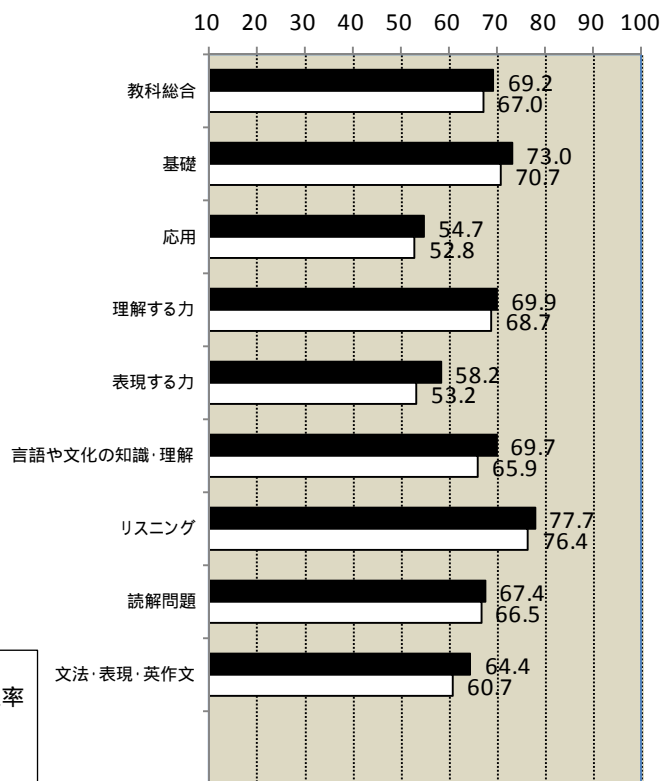
# 学年別 中学2年 学習到達度調査結果の概要 英語 全体概要

## (1) 全体概要



### 通過率と設定通過率との比較

項目	a 札幌市の通過率(平均)	b 設定通過率(平均)	差(a-b)	
教科総合	69.2	67.0	2.2	
基礎	73.0	70.7	2.3	
応用	54.7	52.8	1.9	
観点	理解する力	69.9	68.7	1.2
	表現する力	58.2	53.2	5.0
	言語や文化の知識・理解	69.7	65.9	3.8
領域	リスニング	77.7	76.4	1.3
	読解問題	67.4	66.5	0.9
	文法・表現・英作文	64.4	60.7	3.7



#### 【通過率】

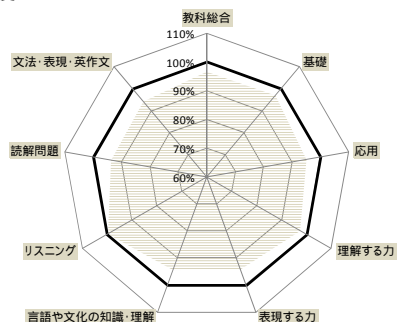
- ・教科全体で見ると、設定通過率が67.0%であるのに対して、札幌市の通過率は69.2%であり、設定通過率と有意(±3ポイント)に差がなく、ほぼ同程度となっている。
- ・基礎と応用で見ると、「基礎」「応用」とともに設定通過率とほぼ同程度となっている。
- ・観点別に見ると、「表現する力」「言語や文化の知識・理解」の観点において、それぞれ5.0ポイント、3.8ポイント設定通過率を有意に上回っている。「理解する力」においては設定通過率とほぼ同程度となっている。
- ・領域別に見ると、「文法・表現・英作文」において、3.7ポイント設定通過率を有意に上回っている。その他の領域においては設定通過率とほぼ同程度となっている。

## (2) 経年比較

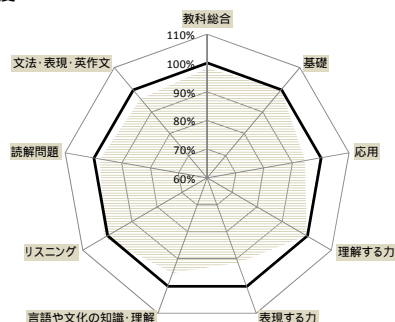
通過率と設定通過率との比較（設定通過率を 100 とした場合）

設定通過率を 100 とし、札幌市の通過率の割合を示したグラフ

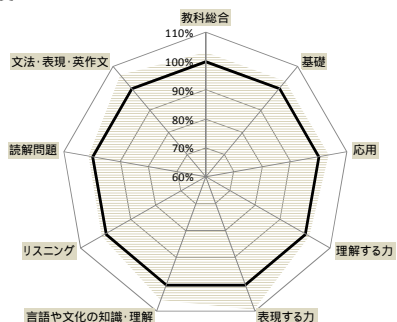
平成17年度



平成20年度



平成23年度



## 通過率と設定通過率との比較

項目	平成17年度			平成20年度			平成23年度			
	札幌市の通過率(平均)	設定通過率(平均)	設定通過率と札幌市の通過率との差	札幌市の通過率(平均)	設定通過率(平均)	設定通過率と札幌市の通過率との差	札幌市の通過率(平均)	設定通過率(平均)	設定通過率と札幌市の通過率との差	
教科総合	63.6	65.8	-2.2	64.6	65.8	-1.2	69.2	67.0	2.2	
基礎	75.7	77.9	-2.3	78.1	77.9	0.2	73.0	70.7	2.3	
応用	52.2	54.9	-2.7	52.0	54.9	-2.9	54.7	52.8	1.9	
観点	理解する力	70.6	72.5	-1.9	72.6	72.5	0.1	69.9	68.7	1.2
	表現する力	50.2	53.3	-3.1	48.7	53.3	-4.6	58.2	53.2	5.0
	言語や文化の知識・理解	54.9	58.2	-3.3	55.3	58.2	-2.9	69.7	65.9	3.8
領域	リスニング	81.4	81.7	-0.3	82.7	81.7	1.1	77.7	76.4	1.3
	読解問題	60.9	65.0	-4.0	63.5	65.0	-1.5	67.4	66.5	0.9
	文法・表現・英作文	56.3	59.7	-3.4	57.2	59.7	-2.5	64.4	60.7	3.7

### 【経年比較】

札幌市の通過率と設定通過率との差異

- ・教科全体における設定通過率との差異は、平成 20 年に比べて 3.4 ポイント、上回っている。
- ・観点別に見ると、「表現する力」「言語や文化の知識・理解」において平成 20 年よりもそれぞれ 9.6 ポイント、6.7 ポイント上回っている。「理解する力」においては平成 20 年とほぼ同程度となっている。
- ・領域別に見ると、「文法・表現・英作文」においては平成 20 年よりも 6.2 ポイント上回っている。その他の領域においては平成 20 年とほぼ同程度となっている。

設定通過率を 100 とした場合の札幌市の通過率の割合

- ・教科全体における設定通過率との差異は、平成 20 年に比べて 5.1 ポイント上回っている。
- ・観点別に見ると、「表現する力」「言語や文化の知識・理解」において平成 20 年よりもそれぞれ 18.0 ポイント、10.8 ポイント上回っている。「理解する力」においては平成 20 年とほぼ同程度となっている。
- ・領域別に見ると、「読解問題」「文法・表現英作文」において平成 20 年よりもそれぞれ 3.7 ポイント、10.2 ポイント上回っている。「リスニング」においては、平成 20 年とほぼ同程度となっている。

( 3 ) 設問別通過率

問題番号			出題内容	観点設定				領域設定				通過率		無回答	基礎 / 応用
大問	小問			理解する力	表現する力	言語や文化の知識・理解	リスニング	読解問題	文法・表現・英作文			平成二三札幌市	設定通過率	平成二三札幌市	
1	1		会話を聞いて、イラストを選ぶ問題								81.5	83.3	0.3	基礎	
1	2		会話を聞いて、イラストを選ぶ問題								87.6	80.1	0.6	基礎	
1	3		会話を聞いて、イラストを選ぶ問題								86.7	87.8	0.5	基礎	
1	4		会話を聞いて、イラストを選ぶ問題								98.3	98.8	0.4	基礎	
2	1		英文を聞いて、空所に適語を選択する問題								83.7	80.6	0.3	基礎	
2	2		英文を聞いて、空所に適語を選択する問題								43.6	39.5	0.4	基礎	
2	3		英文を聞いて、空所に適語を選択する問題								92.9	92.1	0.3	基礎	
3	1		会話を聞いて、英語の質問の答えを選ぶ問題								60	59.1	0.8	基礎	
3	2		会話を聞いて、英語の質問の答えを選ぶ問題								66.5	66.1	0.8	基礎	
3	3		会話を聞いて、英語の質問の答えを選ぶ問題								76	76.9	1.1	基礎	
4	1		会話表現の知識理解								90.8	91.2	0.9	基礎	
4	2		会話表現の知識理解								83.1	86.4	0.9	基礎	
4	3		会話表現の知識理解								82.6	82.3	1	基礎	
5	1		語形変化								71.4	66.2	9.9	基礎	
5	2		語形変化								70.5	68.6	8.8	基礎	
5	3		語形変化								62	55.7	8.2	基礎	
5	4		語形変化								75.8	65.7	8.7	基礎	
6	1		並べかえ英作文								54.3	46.7	1.9	基礎	
6	2		並べかえ英作文								31.6	34.2	3.5	基礎	
6	3		並べかえ英作文								80.2	81.4	3.3	基礎	
6	4		並べかえ英作文								65.2	56.8	3.1	基礎	
6	5		並べかえ英作文								69.2	55.5	1.9	基礎	
7	1		会話文読解問題(適文選択問題)								71.5	70.3	2	基礎	
7	2		会話文読解問題(適文選択問題)								71.4	71.4	2.2	基礎	
7	3		会話文読解問題(下線部の内容を日本語で答える問題)								41.6	43.2	17.3	応用	
7	4		会話文読解問題(日本語選択問題)								63.7	62.9	3.6	基礎	
8	1		英文読解問題(日本語記述問題)								87.2	87.3	7.7	基礎	
8	2		英文読解問題(下線部の内容を日本語で答える問題)								38.2	31.3	34.2	応用	
8	3		英文読解問題(日本語記述問題)								72.7	70	16.1	応用	
8	4		英文読解問題(下線部の表す内容を選択する問題)								62.4	61.6	3	基礎	
8	5		英文読解問題(英文のタイトルを選ぶ問題)								81.5	82.8	2.9	応用	
9			条件英作文								48.6	44.7	24	応用	
10	1		会話文読解問題(英文記述問題)								16.4	13.9	34.9	応用	
10	2		会話文読解問題(日本語記述問題)								83.9	83.8	9.9	応用	

( 4 ) 設問別分析

リスニングに関する設問

「理解する力」についての実現状況を把握するための設問であり、3つの大問、10個の小問により構成している。第1問～第3問において、3ポイント以上設定通過率を上回った設問は小問9問中3問、3ポイント以上下回った設問はなかった。

【第1問】対話のリスニングに関する設問

( 1 ) ～ ( 4 ) : 英語による対話を聞き、放送された対話の内容と合致する絵を4つの選択肢から選択する問題である。通過率は( 1 )では81.5%、( 2 )では87.6%、( 3 )では86.7%、( 4 )では98.3%であり、設定通過率を( 2 )では7.5%上回っている。

【第2問】説明文のリスニングに関する設問

( 1 ) ～ ( 3 ) : 休日の過ごし方について説明する英文を聞き、日本語の文の空所にあてはまるものを4つの選択肢から選択する問題である。通過率は( 1 )では83.7%、( 2 )では43.6%、( 3 )では92.9%であり、設定通過率を( 1 )では3.1%、( 2 )では4.1%上回っている。

### 【第3問】対話のリスニングに関する設問

(1)～(3): 英語による対話を聞き、内容についての英語の質問の答えを4つの選択肢から選択する問題である。通過率は(1)では60.0%、(2)では66.5%、(3)では76.0%であり、いずれも設定通過率とほぼ同程度となっている。

リスニングに関する設問については、設定通過率とほぼ同程度か、上回っている。リスニングに関する能力は定着してきているが、ALTや、CDなどの音声教材の効果的な活用を図るとともに、音声によるコミュニケーションを重視した指導の充実に、引き続き努めていくことが必要である。

#### 対話文における適文選択の設問

「言語や文化の知識・理解」についての実現状況を把握するための設問であり、3つの小問により構成している。第4問において、3ポイント以上設定通過率を上回った設問はなく、3ポイント以上下回った設問は3問中1問であった。

### 【第4問】対話文中の空欄にあてはまる文を選択する設問

(1)～(3): 英語による対話が成立するように、質問文の空欄にあてはまる適切な文を4つの選択肢から選択する問題である。通過率は(1)では90.8%、(2)では83.1%、(3)では82.6%で、設定通過率を(2)では3.3ポイント下回っている。

対話文における適文選択の設問については、設定通過率を下回ったものが1問あった。ロールプレイや、大型テレビや電子黒板などを使った映像・アニメーションを見ながらの会話練習などを通じて、場面や状況を踏まえながら適切に対話を行う指導の充実が必要である。

#### 語形変化と並べ替えに関する設問

「表現する力」及び「言語や文化の知識・理解」についての実現状況を把握するための設問であり、2つの大問、9つの小問により構成している。第5問・第6問において、3ポイント以上設定通過率を上回った設問は、9問中6問で、3ポイント以上下回った設問はなかった。

### 【第5問】英文が正しくなるよう語形を変化させる設問

(1) have を has に変化させる問題では、通過率は71.4%であり、設定通過率を5.2ポイント上回っている。

(2) run を running に変化させる問題では、通過率は70.5%であり、設定通過率とほぼ同程度となっている。

(3) study を studied に変化させる問題では、通過率は62.0%で、設定通過率を6.3ポイント上回っている。

(4) talk を talking に変化させる問題では、通過率は75.8%で、設定通過率を10.1ポイント上回っている。

**【第6問】与えられた日本語の意味に合うよう英文中の4語を並べかえる設問**

- (1)好きな教科を質問する英文になるように、英文中の4語を並べ替える問題では、通過率は54.3%で、設定通過率を7.6%上回っている。
- (2)未来のことについての推量したことを述べる英文になるように、英文中の4語を並べ替える問題では、通過率は31.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (3)未来のことについての推量したことを述べる英文になるように、英文中の4語を並べ替える問題では、通過率は80.2%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (4)過去の出来事を述べる英文になるように、英文中の4語を並べ替える問題では、通過率は65.2%で、設定通過率を8.4%上回っている。
- (5)自分の所有物であることを述べる英文になるように、英文中の4語を並べ替える問題では、通過率は69.2%で、設定通過率を13.7%上回っている。

語形変化と並べ替えに関する設問については、設定通過率とほぼ同程度あるいは上回っている。基本的な文法事項・単語・連語・慣用表現については、定着が図られてきている反面、他の大問に比べて、やや通過率が低くなる傾向が見られる。学んだ文法事項・語彙を活用し、自分自身の意見や身近な出来事などについて、与えられた場面に即した英語で表現ができるよう指導の一層の充実を図ることが必要である。

**長文読解に関する設問**

「理解する力」についての実現状況を把握するための設問であり、2つの大問、9の小問により構成している。第7問・第8問において、3ポイント以上設定通過率を上回った設問は小問9問中1問、3ポイント以上下回った設問はなかった。

**【第7問】会話文読解に関する設問**

- (1)会話文中の空欄に当てはまる適文を選択する問題では、通過率は71.5%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2)会話文中の空欄に当てはまる適文を選択する問題では、通過率は71.4%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (3)本文の内容について日本語で説明する問題では、通過率は41.6%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。無解答については、17.3%と、やや高くなっている。
- (4)本文の内容と一致する日本語の文を選択する問題では、通過率は63.7%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。



#### 【第8問】英文読解に関する設問

- (1) 本文の内容について日本語で説明する問題では、通過率は87.2%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (2) 本文の内容について日本語で説明する問題では、通過率は38.2%で、設定通過率を6.9%上回っている。無回答については、34.2%と高くなっている。
- (2) 本文の内容について日本語で説明する問題では、通過率は72.7%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。無解答については、16.1%と、やや高くなっている。
- (4) 下線部の表す内容を選択する問題では、通過率は62.4%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。
- (5) 英文のタイトルとして適切なものを選択する問題では、通過率は81.5%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。

長文読解に関する設問については、設定通過率とほぼ同程度あるいは上回っている。英文を読み取り、理解する力については、ある程度定着していることが読み取れる。引き続き、まとまりのある英文を読む活動において、教師が読み取りの手がかりとなるキーワードを示したり、5W1Hに着目させたりして、話の展開やあらすじ、大切な情報を把握させる読み方を指導していくことが必要である。

#### 英語での表現に関する設問

「理解する力」および「表現する力」についての実現状況を把握するための設問であり、2つの大問、3の小問により構成している。第9問・第10問において、3ポイント以上設定通過率を上回った設問は小問3問中1問、3ポイント以上下回った設問はなかった。

#### 【第9問】条件英作文

2文以上で発表原稿を書く問題では、通過率は48.6%であり、設定通過率を3.9%上回っている。無回答については、24.0%と高くなっている。

#### 【第10問】資料から読み取った内容を英語や日本語で答える問題

- (1) グラフから読み取った情報をもとに、対話文中の空欄に当てはまる英文を記述する問題では、通過率は16.4%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。無解答については、34.9%と、高くなっている。
- (2) 本文の内容について日本語で説明する問題では、通過率は83.9%で、設定通過率とほぼ同程度となっている。

英語での表現に関する設問については、設定通過率とほぼ同程度の結果となっているが、無解答も多い。書く活動においては、生徒になじみの深いトピックや興味のあるトピックを選定し、書く意欲を喚起させたい。また、書くためのヒントとなるよう、必要な単語や熟語、定型文などを与えるなど、指導方法の工夫改善を図ることが必要である。

( 4 ) 英語学習に関する意識結果

	年度	とても あてはまる	やや あてはまる	あまり あてはま らない	まったく あてはま らない
英語の話が理解できないときには、聞き返そうとしている。	平成17年度	20.3	38.5	29.4	11.2
	平成20年度	18.9	38.2	30.5	12.1
	平成23年度	17.1	41.0	31.9	9.8
学んできた単語を積極的に使って英語で話そうとしている。	平成17年度	14.9	33.9	36.3	14.2
	平成20年度	19.0	33.2	31.9	15.7
	平成23年度	19.6	35.0	33.8	11.2
教科書以外にも英語の文章を読みたいと思う。	平成17年度	19.8	26.9	30.3	22.4
	平成20年度	20.0	25.0	30.0	24.7
	平成23年度	20.9	27.9	30.6	20.3
英作文をするときには、学んできたいろいろな単語や文法を積極的に使って書こうとしている。	平成17年度	18.6	35.4	32.1	13.2
	平成20年度	21.5	36.3	27.9	14.0
	平成23年度	24.8	36.8	28.0	10.2
英語の文章は、音読をするようにしている。	平成17年度	19.9	36.7	29.6	13.2
	平成20年度	24.7	37.0	25.8	12.3
	平成23年度	26.5	37.7	26.9	8.6
英文の意味をくわしく正確に理解する学習のとき、知らないことばが出てきたら、自分で調べるようにしている。	平成17年度	29.1	35.4	24.6	10.3
	平成20年度	31.0	37.9	19.6	11.2
	平成23年度	34.1	37.3	19.7	8.8
文章全体のおおよその内容を理解する学習のとき、理解できない単語があっても、あきらめずに自分で意味を考えながら聞いたり読んだりするようにしている。	平成17年度	24.5	38.7	26.4	9.8
	平成20年度	24.8	42.3	21.4	11.2
	平成23年度	28.4	41.0	23.0	6.6

< 全体について >

平成 20 年度に比べて、すべての質問において肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加している。成績上位層（A層）と下位層（D層）との差が最も大きかった質問は、「英作文をするときには、学んできたいろいろな単語や文法を積極的に使って書こうとしている」であった。普段の学習で学んだ言語事項などを活用しようとする意欲が、学力差にかかわっていることが読み取れる。

< 設問別分析 >

「英語の話が理解できないときには、聞き返そうとしている」「学んできた単語を積極的に使って英語で話そうとしている」という質問では、肯定的に回答した割合が、それぞれ 58.1%、54.6% となっており、半数以上の生徒が肯定的な意識をもっていることがうかがえる。ペアワークなど相互にコミュニケーションを図る活動において、英語によるコミュニケーションの大切さや楽しさを実感させるとともに、活動において既習の単語を繰り返し活用させる指導の一層の充実が必要である。

「教科書以外にも英語の文章を読みたいと思う」という質問では、肯定的に回答した割合は 48.8% となっている。時事問題や生徒が興味・関心をもっている内容を扱った英文など、生徒に読みたいと思わせる題材等の積極的な活用が求められる。

「英作文をするときには、学んできたいろいろな単語や文法を積極的に使って書こうとしている」という質問では、肯定的に回答した割合が 61.6% となっている。聞いたり話したりしたことについて書かせるなど、総合的なコミュニケーション活動を通して、既習事項を確実に定着させる指導の充実が一層求められる。

「英語の文章は、音読をするようにしている」という質問では、肯定的に回答した割合が 64.2% となっている。単に音読をさせるのではなく、スラッシュリーディングやセンズグループごとに読ませるなどの音読方法も取り入れ、英文の内容を意識させながら読ませるなどの指導が求められる。

「英文の意味をくわしく正確に理解する学習のとき、知らないことばが出てきたら、自分で調べるようにしている」という質問では、肯定的に回答した割合が 71.4% となっており、未習の言語事項に対する興味・関心が高いことがうかがえる。適宜辞書の活用を図り、未習の単語について調べることを習慣化していくことが重要である。

「文章全体のおおよその内容を理解する学習のとき、理解できない単語があっても、あきらめずに自分で意味を考えながら聞いたり読んだりするようにしている」という設問では、肯定的に回答した割合が 69.4% となっている。英語を聞いたり読んだりする際に、分からない単語があっても、内容を理解しようとしていることがうかがえる。聞き取りや読み取りのポイントとなるキーワードやセンテンスを手がかりとして概要を推測させながら、内容や情報を理解させる指導の一層の充実を図ることが求められる。